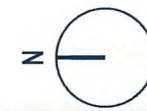


2. 低層部のデザイン

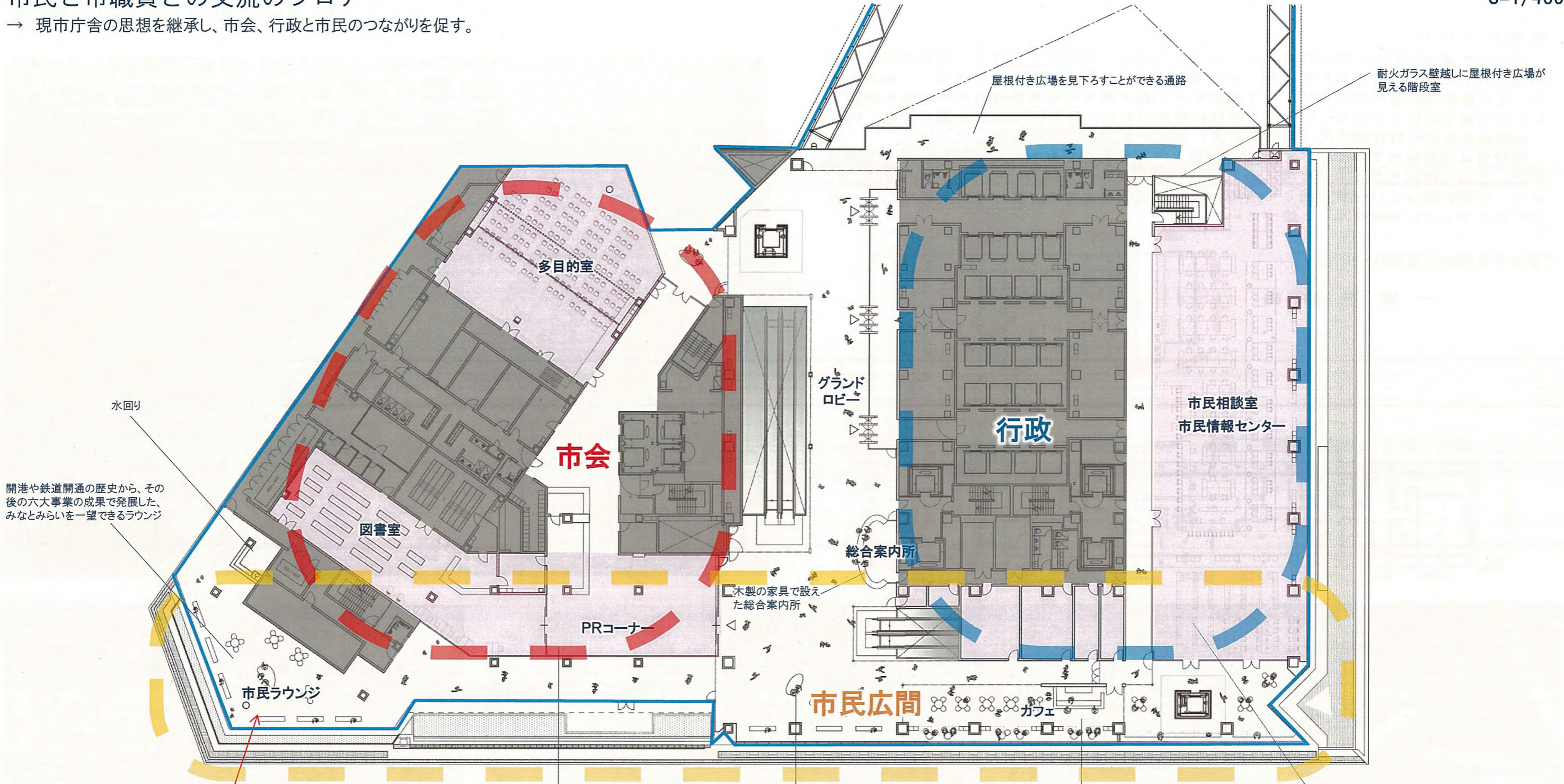


3階平面図

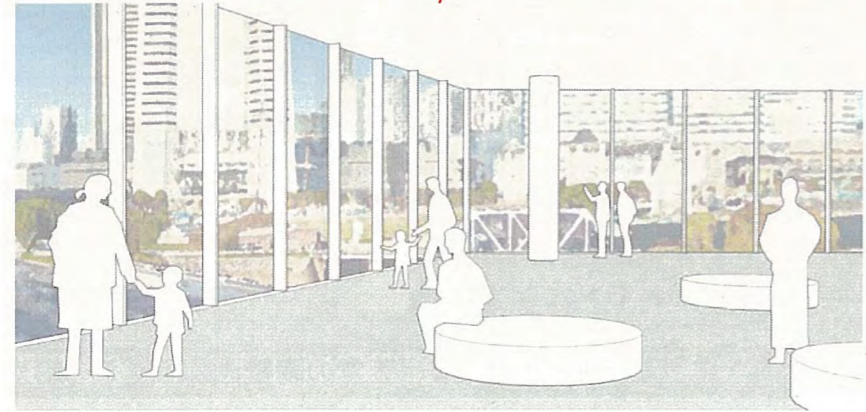
市民と市職員との交流のフロア

S=1/400

→ 現市庁舎の思想を継承し、市会、行政と市民のつながりを促す。



開港や鉄道開通の歴史から、その後の六次産業の成果で発展した、みなとみらいを一望できるラウンジ



市民が市会にふれあえるところを広くとり、議員がどのような活動をしているかを示すPRコーナーを設える

市民と職員が交流できる、簡単な打合せや待ち合わせができるスペース。たとえば請願書や陳情書になる前の、市政の問題などを相談できる。

水辺を一望できるカフェ。Wi-Fi環境を整えることで、フリーアドレスで仕事もできる。

「社会的包摂」を可能にする相談室。いろいろな生活困難を抱えた人々を社会的に排除しないで、社会的に包み込むところ。

2. 低層部のデザイン

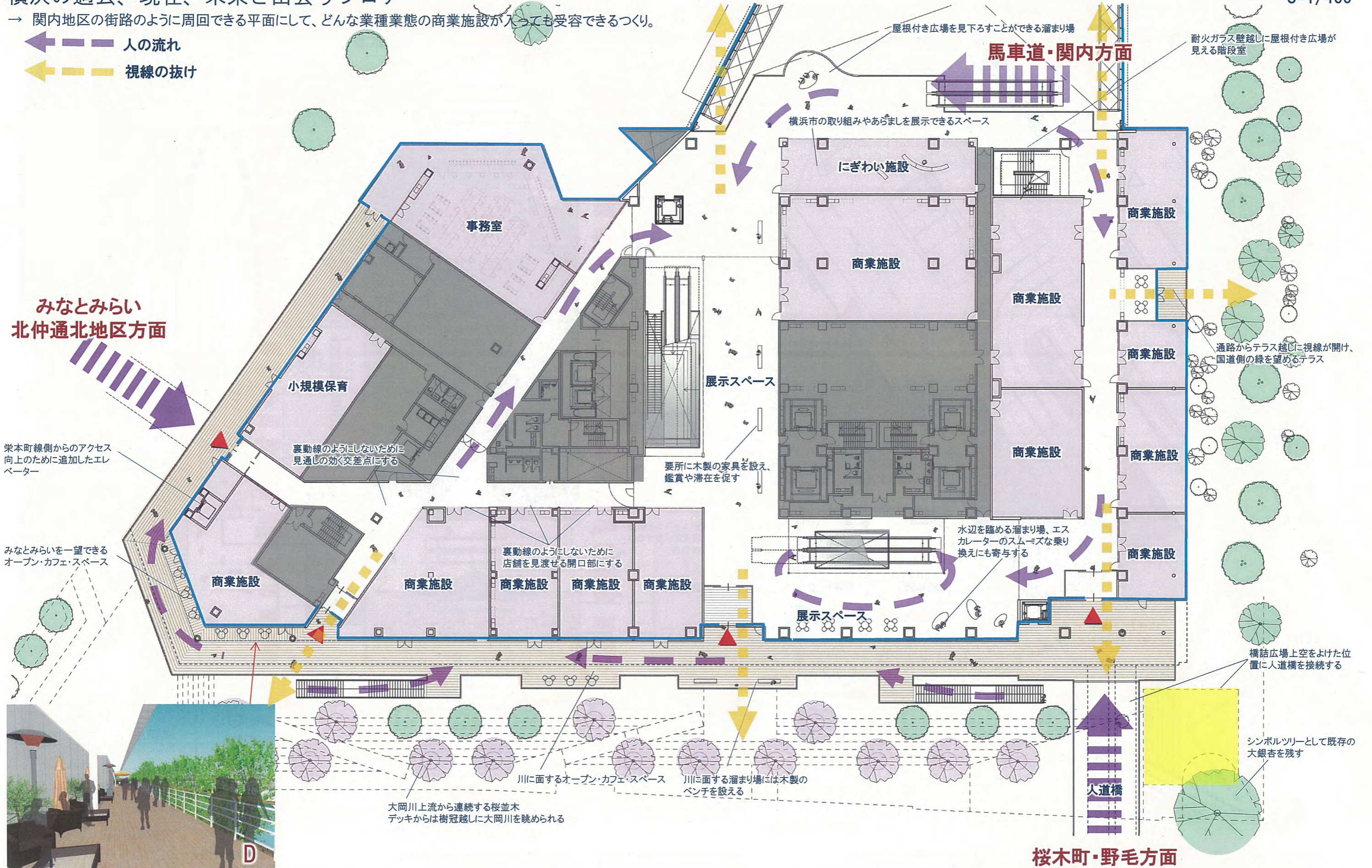


横浜の過去、現在、未来と出会うフロア

S=1/400

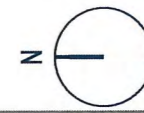
→ 関内地区の街路のように周回できる平面にして、どんな業種業態の商業施設が入っても受容できるつくり。

- 人の流れ
- 視線の抜け



D

2. 低層部のデザイン

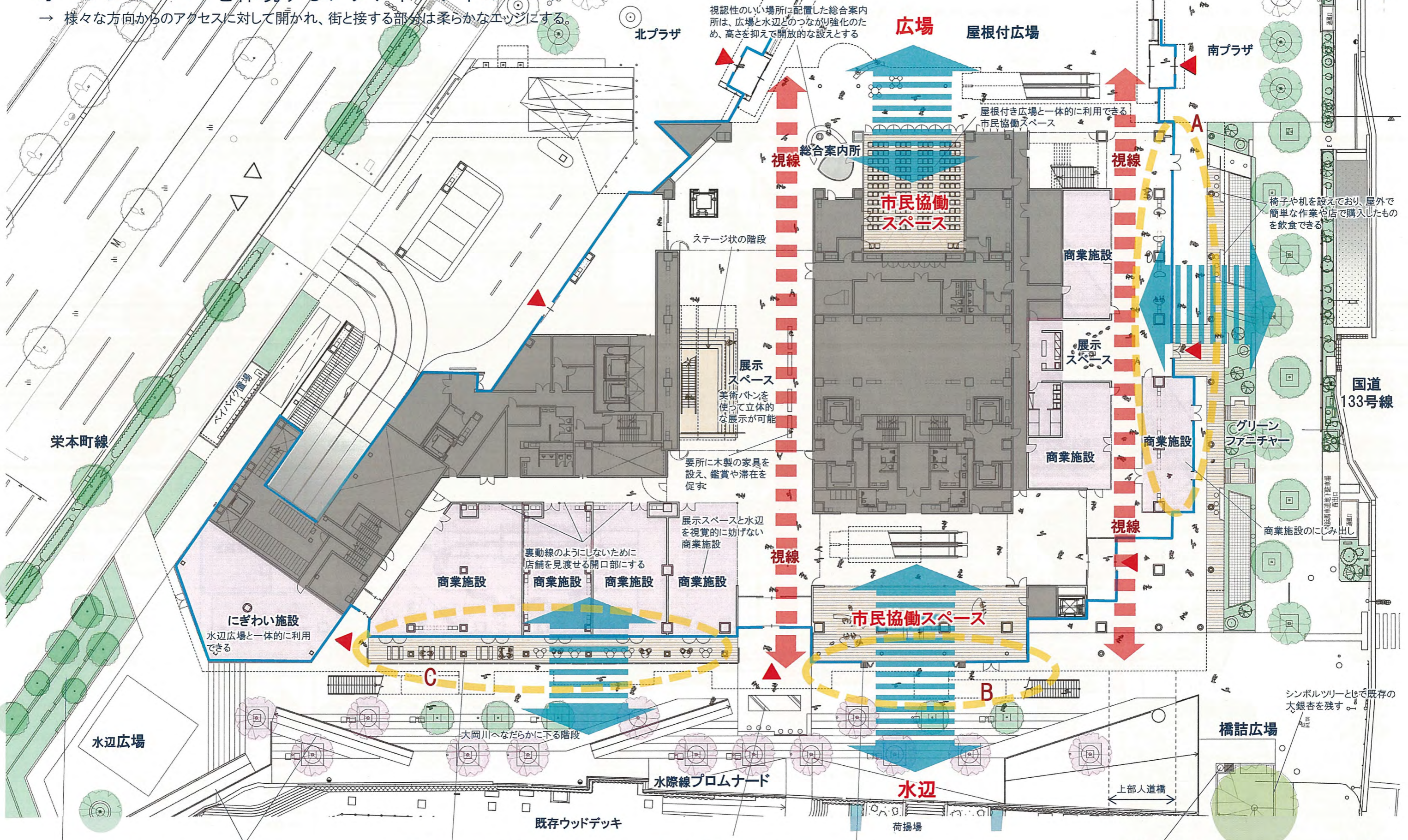


1階平面図

オープンヨコハマを体現するアクティビティのフロア

→ 様々な方向からのアクセスに対して開かれ、街と接する部分は柔らかなエッジにする。

S=1/400



水辺広場を囲うランドスケープ
建構を利用した段状のベンチ

既存ウッドデッキまで容易にアクセス
できるスロープ

商業施設が川に向かってにじみ出す
縁側のようなオープンカフェスペース

屋根付き広場からの空間的つながりを
示す溜まり場。旧護岸を床下に展示する。

水辺のアクティビティをサポートする全面開放
できる開口部。光と風が通りぬける。

水辺のアクティビティも
サポートする足洗い場

弁天橋



A

1階 南側ピロティ



D

2階 外部デッキ



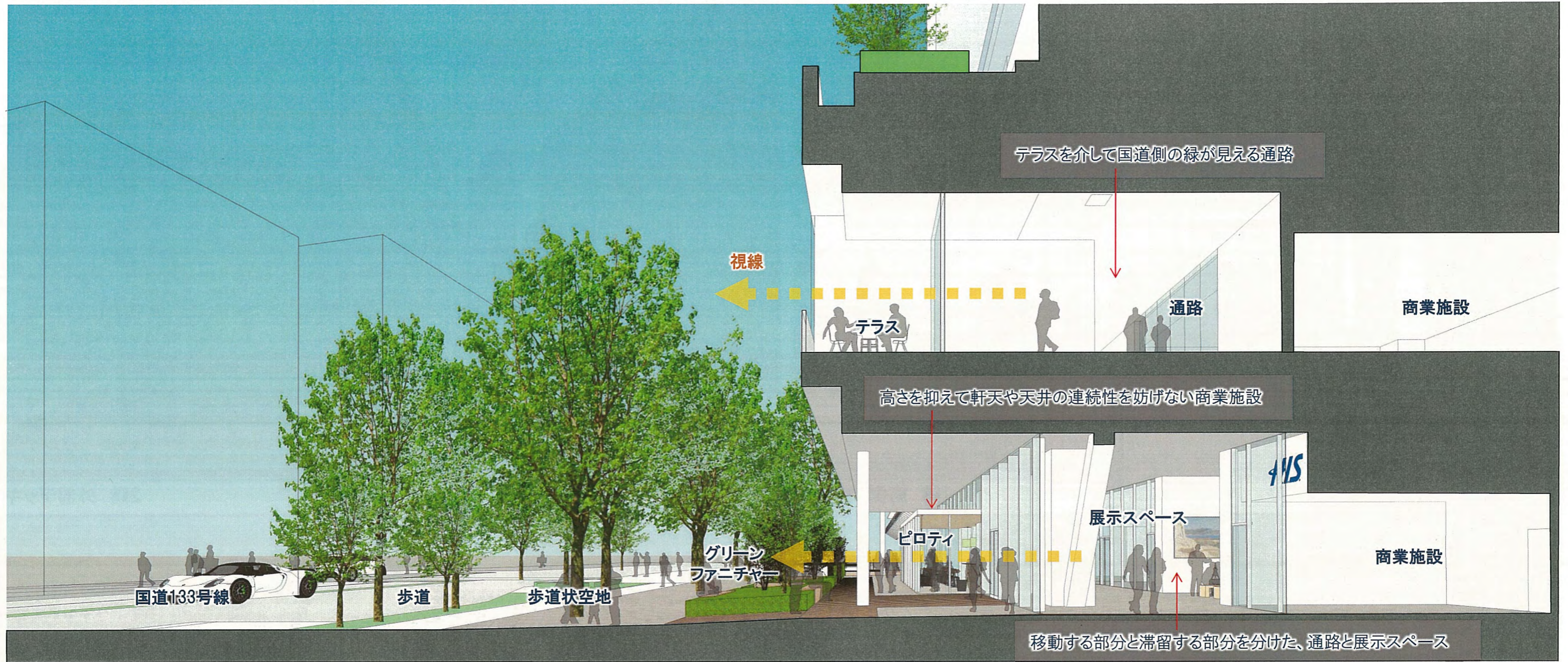
B

1階 水際線プロムナード_市民協働スペース



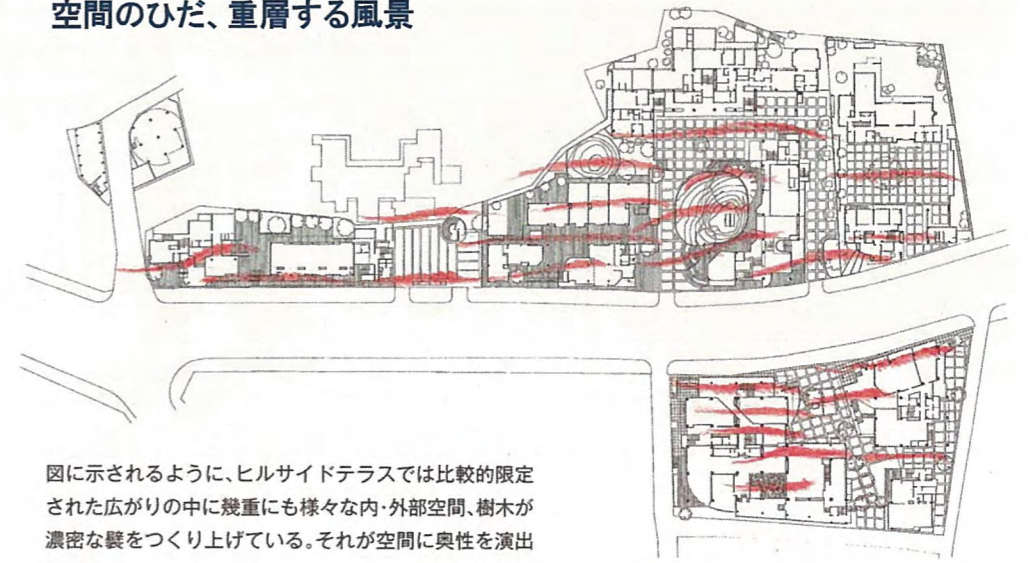
C

1階 水際線プロムナード_商業施設



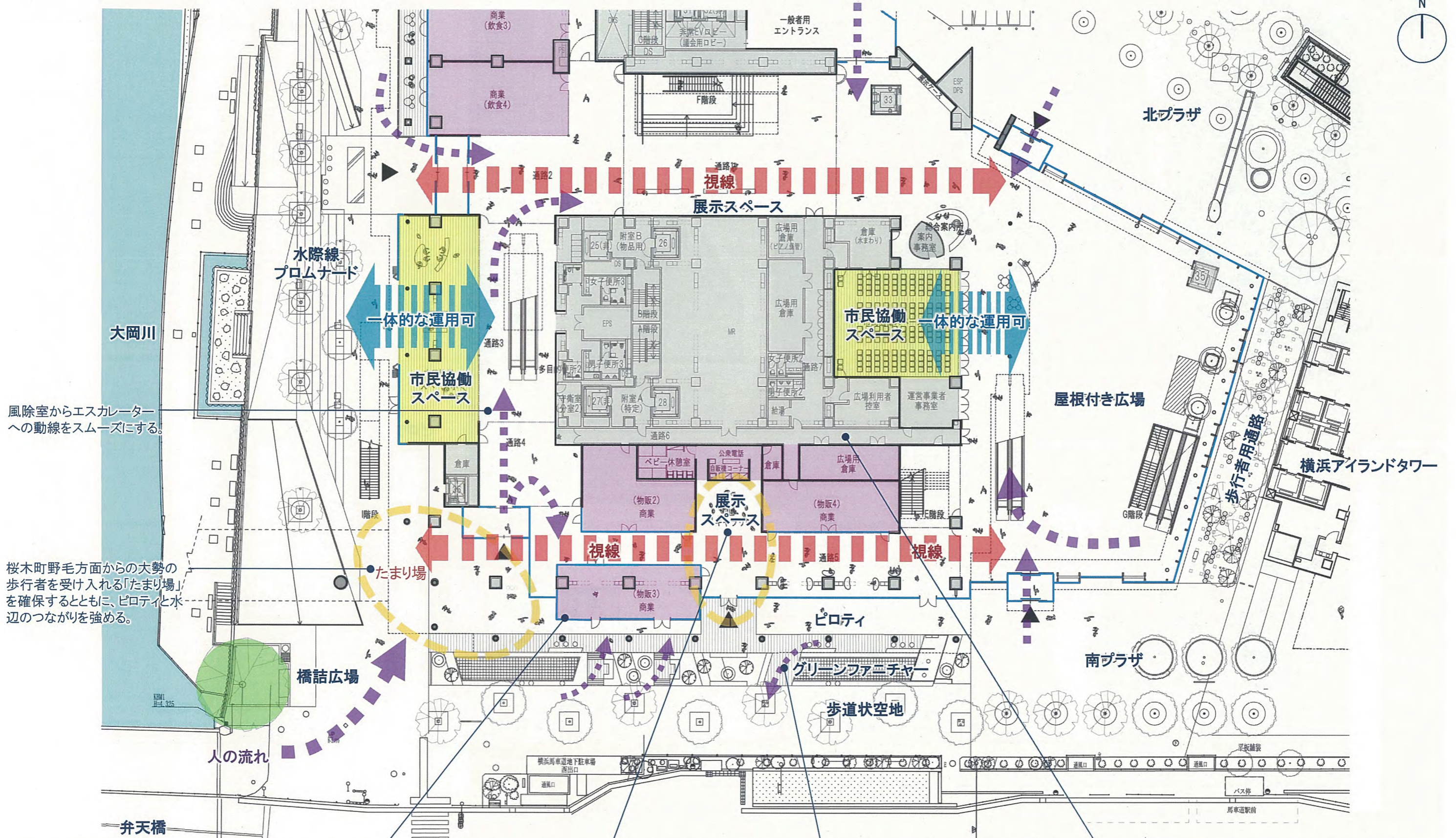
店舗を通して奥が見える様子 __ヒルサイドテラス

空間のひだ、重層する風景



図に示されるように、ヒルサイドテラスでは比較的限定された広がりの中に幾重にも様々な内・外部空間、樹木が濃密な装をつくり上げている。それが空間に奥性を演出している。

『ヒルサイドテラス+ウエストの世界』より抜粋



風除室からエスカレーターへの動線をスムーズにする。

桜木町野毛方面からの大勢の歩行者を受け入れる「たまり場」を確保するとともに、ピロティと水辺のつながりを強める。

商業施設を外部に露出させることで、平時での賑わいづくりの一助とする。屋根付き広場と水辺の視覚的連続性を確保するため、ピロティに接する商業施設は透明な作りとする。

商業施設はコア側配置とし、アルコーブを設けることで壁面の長さを増やし、展示スペースとして機能させる。その一部が、外部へのにじみ出しをつくる。

緑と家具が一体になったグリーンファニチャーを設け、活動的な緑の場を創出する。国道の喧騒を和らげるバッファーとする。

コアと商業施設の間に避難経路を確保することで、展示スペースは美術館並みの火災荷重に対応する。商業施設に表・裏を作り、裏側に必要な施設を配置する。



ピロティ： 橋詰広場方面を眺める



展示スペース： 橋詰広場方面を眺める